

文献センター通信

第 1 号
2006年11月18日

主な内容

経過報告	1
第二回富士宮集会の報告	1
作業部会からの報告	3
アナキズム文献センター規約	5
運営委員会議事録	7

昨年七月の第一回富士宮集会后、九月には東京でNPO法人設立準備会を立ち上げ、毎月一回の定例会議で「センターの法人化」および「センター」に付随する諸活動」を議題に継続的な話し合いをもちました。

経過報告

法人化に向けては、NPO法人設立に必要な定款の作成と検討を重ねて原案をまとめるところまで進捗しましたが、今年一月段階よりNPO法人そのものがはらんでいる問題点が指摘され論議となりました。

当初、三月の京都会議で定款を決定する予定でしたが、京都では昨年七月来の報告と法人化をめぐる論点整理、および参加者各自の意見表明に終わり、会議後の意見交換を踏まえて、法人化はNPO法人にとらわれず他の可能性を視野に入れるとし、検討課題とすることになりました。

NPO法人をめぐる紛糾は、NPO法人そのものについての十分な認識をもたないままに、

性急に定款案作成作業に入ったことが反省されます。

京都会議を受けて四〜五月に、法人化を今後の検討課題として一時棚上げとし、次期センター建設の立案を含む活動の実質化を図っていくこと、法人化に至る期間の運営体制を設立準備会から運営委員会に移行することとし、作業部会の活動に力点が移されています。

以下、七月の第二回富士宮集會でのセンター設立、作業部会の活動を報告します。

運営委員会

第二回富士宮集會の報告 アナキズム文献センター 設立總會報告

二〇〇六年七月八日〜九日

□出席者

龍、前田（八日のみ）、西村、平田、松原、奥沢、伊藤、佐藤、松本、山田、古屋

□七月八日〓アナキズム文献センターNPO法人設立準備會會合およびアナキズム文献センター設立總會

□七月九日〓アナキズム文献センター運営委員会初會合

決定事項

① 七月八日付でアナキズム文献センターを新組織として発足させる。今後、法人化に至るまでセンターの維持・管理・運営全般は同センター「運営委員会」が担う。

- ② 規約を別掲(5・6頁)のよう
に決定した。
- ③ 準備会の一年余の会計報告を了
承し(下記)、かつ旧センターの会
計を合わせ新会計に移管する。ま
た、予算案を作成し活動の見通し
を立てていく。

当面の事務体制

- ① センターのホームページ(H
P)の開設に伴い、メーリングリ
スト(ML)をホームページのサー
バーに移行する。MLの管理者は
佐藤が引き継ぐ。
- ② 事務分担

(会計) および (書記) 古屋

当面の課題

法人化に至るまでセンターの維
持・管理・運営全般は運営委員会
が担い、法人化は運営委員会(検
討委員会)で引き続き検討してい

**□会計報告
(2006年7月8日現在)**

① 準備会の会計

[収入の部]
会費: 100,000 1口5000円×20口(18名)
カンパ: 28,000 (4名)

合 計: 128,000

[支出の部]
通信費: 5,508 (案内郵送、HPサーバーなど)
消耗品: 235 (領収書など)
その他: 21,475 (デジタル部会DVD化費用)
残 金: 100,782
(→新センター会計へ)

合 計: 128,000

② 現センターの会計

残 金: 52,131
(→新センター会計へ)

合 計: 52,131

準備会+現センターの合計
152,913円が新センターへ移管

※振替口座は、当面、以下の旧口座を継続して
利用します。

郵便振替口座 00850-3-30010
口座名 A 文献センター

- ① センターの法人化については、
NPO法人格取得を中止した上で、
中間法人など他の法人格を視野に
入れて十分な議論のため検討委員
会を置いた(担当||伊藤)
- ② センターの管理細則をつくる
——例・同一資料本を二冊収蔵に
するなど
- ③ 次期センター構想(三次)の
立案・検討・決定に取り組む
- ④ 会費とは別に次期センター建
設基金を呼びかけていく(一口一
万円で複数口を)
- ⑤ 作業部会を軸に個々の活動の
積み重ねを図る
- ⑥ 事務作業場や分室(センター
蔵書を提供し○○文庫など)とし
て機能を持たせて、東京事務所を
なるべく早めに構える(年内目標)
- ① センターの法人化については、
細かなルール(保存面と利用面)な
どが課題となっている。なお、目
録制作が一段落するまで(二年く
らい?)利用は制限される。
- ① センターの青写真をつくる

次期センター構想

a. 書庫の物理的条件と書庫の管理体制（人および組織として）の二面があり、センターの今後の姿としては、次のようないくつかのケースが考えられる。

1. （理想は）法人化設立、独自の土地、建物、専従者（有給給）
2. 借地、独自建物、専従者（有給給）
3. 借地、独自建物、専従者（無給）
4. 借地、独自建物、常駐（現センター）
5. 借地、独自建物、セキュリティ会社社に管理委託、毎週や毎月交代で開館

- b. 条件および優先度
- ・不燃性独立書庫 〓 防火・耐火・空調
 - ・書庫スペース（現センターは八・五坪） 〓 三〇〇四〇坪・管理・事務（兼宿泊）スペース

② 分室を立案し、分室のいずれかをポスト富士宮とする。東京・関西・九州・北海道・四国などで、在住の個人に託し提携する

緊急避難——ポスト体制が整わないうちに移転の必要が生じた場合の対応

集中管理に対する分散管理の可能性

③ プロセス

a. 計画とは別立てで基金の積み立てを始める

b. プランに合う土地・人を募集する

例・〇六年七月〜〇七年六月を計画募集期間とし、個々の条件を列記したプランを募る

〇七年七月〜一二月に計画を決定する ↑↓ これを法人化と連動させる

物理的にもっと広い所へセンターを移設することについては、なるべく早めに検討を行う。

前項の具体的構想が決まり次第、

建設の協力（基金など）を呼びかける。

作業部会からの報告

（各担当）

〇デジタルアーカイブ部会（伊藤）

・映像 〓 V スペインの短い夏（ビデオ 〓 DVD）貸出規約を制作次第、貸出▽希望と欺瞞の間に（同）テロップ化（川口氏協力）を進行中▽ルイズその旅立ち（同 〓 制作中）著作権の問題で公的な貸出は無理か▽大地の慟哭「関東大震災」（スライド 〓 DVD）

・音声 〓 大杉栄ら虐殺七〇周年墓前祭献歌／宮本三郎（カセットテープ 〓 CD-ROM）

・探したい映像や音声 〓 〓 大地の慟哭（一九八三・九・一一）での講演を納めたビデオ▽自由人講座の音声テープなど

※各地、各自宅にあるデータをリストアップ／ライブラリー化

&眠っているテープなど呼びかける。

※古い人たちのものだけでなく、なかなか観られないヨーロッパの映画などもデジタルアーカイブに入れて入れていければよい。

〇目録部会（伊藤、山田）

・特定の人を検索したら、書籍などはもちろん、映像や音声データまでリストが出るようにしていきたい。

・現在、五〇〇冊くらい（全体の二〇%か？）入力が済んでいる。ある程度まとまったら公開する予定。

〇ホームページ部会（古屋）

・センターからの情報の発信やイベント情報、アナキズム関連の新聞案内、会員募集などを掲載する。
・戦後アナキズム年表（後述）を発表。目録データベース公開、貴重なアルバムやオーディオ資料などの公開も予定している。
・定期的な特集など（山鹿泰治特

集などや龍さんからの話などや、会員の活動報告なども掲載したい。

※各地で発行しているミニコミ等の情報も紹介していきたいので、ぜひセンター(古屋)まで情報を。

○戦後アナキズム年表部会(古屋)

・意外とまとまっていけない戦後のアナキズム運動の年表をまとめてホームページで公表。雑誌『アナキズム』に掲載されていたもの(一九四六・一・二〇〜一九六九・一・二四)とAINET公開されたもの(二八六八〜一九八七)をまずは公開予定。その後、データベース化へ。

・戦後アナキズム関係資料を連載中の『アナキズム』誌との連携もできれば。

※八三年以降については、今後ぜひ作成していきたい。ぜひご協力をお願いいたします。

○カレンダー部会(松本、佐藤)

・作業部会スタッフである程度

(図版選定など)決めて、運営委員会に諮り、具体的に進めていきたい。

○補足事項、各報告への意見など

・名簿については、これまでバラバラになっているので、きちんと管理体制をつくり、多角的に使用できるように整えていく。

・富士宮センター(物理スペース+龍さん)に代わりうるものを作り上げていかないとセンターの永続的な存続は難しい。ここは少し時間をかけて考えていかないといいない。

・ホームページは、魅力あるものを目指して編集委員会なりで、定期的に更新できるようにきちんとした体制作りが必要。

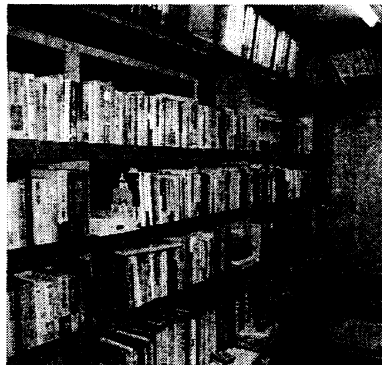
・各地域のイベントでセンターを紹介していきたい(カレンダーなど物販。センターのリーフレットやチラシなどあれば)。

・センター会員申込書は、紙だけでなく、ホームページからも申し

文献センターとは

文献センターは、アナキズムの思想・運動に関わる書籍・資料を収集・保管し、広く公開していくことを目的として静岡県富士宮市の龍武一郎方に一九七〇年に設立された文庫です。

現在は同地に八坪余の書庫と、



多くの書籍と運動関係の定期刊行物・パンフレットやビラ・チラシ等が所蔵されています。

かれこれ三十年余の歴史を持ち、この間には幾多の消長がありましたが、今また世代交代という課題にも直面するようになりました。

そして、文献センターの継続とより一層の充実が関係者より提案され、二〇〇五年から新たな取り組みが開始され、今日に至っていません。

詳細はホームページ(<http://www.cira-japan.net/>)をご覧ください。

☆☆☆☆☆

込みできる体制を作りたい。

・維持費については、年額を設定して、費用を負担していく方向で。

・作業部会用のML(メーリングリスト)を作成してもよいのでは。

アナキズム文献センター 規約

(名称)

第1条 当団体は任意団体であり、アナキズム文献センターと称する。

(目的)

第2条 当団体は、次の事業を営むことを目的とする。

- (1) アナキズム文献センターの永続的な維持管理
- (2) その他アナキズム関連の文献にかかわる事業
- (3) 当団体の法人化の検討
- (4) その他の事業(営利事業を含む)

(所在地)

第3条 当団体は本部事務所を東京都に置く。

(会 員)

第4条 第2条の当団体の目的に賛同し、参加を運営委員会に申し込んだものが会員となる。

(運営委員会)

第5条 運営委員会は、第2条の目的を遂行するために必要な活動を行う。

- 2 運営委員会は、5人以上の運営委員をもって構成する。
- 3 運営委員は、総会において会員の中から選出する。
- 4 運営委員会は、運営委員長を選出し、運営委員長は当団体を代表するものとする。

(作業部会)

第6条 運営委員会は、第2条の目的を遂行するために、作業部会を随時、設立できる。

2 作業部会は、作業の進捗状況を適宜、会員に報告するよう努めることとする。

(法人化検討委員会)

第7条 運営委員会は、第2条の目的を遂行するために、法人化検討委員会を設立できる。

2 法人化検討委員会は、当団体の法人化についての審議ならびに報告を会員に対して行う。

(総会の権能)

第8条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 当規約の変更
- (2) アナキズム文献センターの建設・移設
- (3) 当団体の法人化
- (4) その他運営に関する重要事項

(総会の開催)

第9条 定例の総会は、最低3年に1回開催する。

2 臨時の総会は、次の各号の1

に該当する場合に開催する。

(1) 運営委員会が必要と認め招集の請求をしたとき。

(2) 会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(総会の招集)

第10条 総会は、運営委員会が招集する。

(総会の議決)

第11条 総会の議事は、出席した会員の過半数をもって決し、可決のときは、議長の決するところによる。

(資産の構成)

第12条 当団体の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録に記載された資産(蔵書を含む)

(2) 会費

(3) 寄付金品(蔵書を含む)

(4) 財産から生じる収入

(5) 事業に伴う収入

(6) その他の収入

(資産の管理)

第13条 当団体の資産は、運営委員会が管理する。

(事業報告及び決算)

第14条 当団体の事業報告書等は、毎事業年度終了後、運営委員会が作成し、速やかに会員に知らせなければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第15条 当団体の事業年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

(当団体の解散)

第16条 当団体は、総会の決議により解散する。

2 当団体が解散するときは、法人化による場合を除き、会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 法人化による当団体の解散は、出席した会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。

(残余財産の帰属)
第17条 当団体が解散したときに残存する財産は、総会において決議されたものに譲渡するものとする。

2 法人化による当団体の解散の場合は、前項の規定にかかわらず、新法人に帰属するものとする。

(細則)
第18条 この規約の施行について必要な細則は、運営委員会がこれを定める。

附則

1. この規約は、当団体の成立の日から施行する。

2. 当団体の設立当初の運営委員は、次に掲げる者とする。

- 伊藤博康、奥沢邦成(委員長)、古屋淳二、佐藤徹、富板敦、西村修、平田明紀、前田幸長、松原秀晃、松本勲、山田崇正、龍武一郎(50音順)

3. 当団体の設立当初の事業年度は、成立の日から2007(平成19)年12月31日までとする。

4. 当団体の設立当初の年会費は、次に掲げる額とする。

1口 1,000円

以上、2006年7月9日、総会参加者の同意を得て決定した。

アナキズム文献センター
会員を募集します

三月の京都集会、七月の第二回富士宮集会を経て、昨年来取り組んできた法人設立を一時期棚上げにし、文献センターの活動の実質化を図るべく、当面は会員制のもとで活動・体制づくりを進めることにしました。

つきましては、文献センター会員への参加を広く呼びかけます。

積極的な参加をお願いします。会費は年間一口一〇〇〇円としますが、可能であれば複数口でお願いします。

運営委員会議事録 (抄)

七月運営委員会

二〇〇六年七月二日

○ビデオ、フィルムのDVD化について伊藤さんが説明。放送された『ルイズーその絆』のビデオをDVD化。「大杉虐殺 墓前祭(二〇〇三年)」の講演会のビデオのDVD化も予定。画質の良くないビデオテープは、ビデオキヤプチャーを購入し、業者を通さず作業を行いたい。

松本さんが、フィルム『ルイズーその旅立ち』をDVD化できるかどうか、確認している。先方にも意向はあるようで、少し推移を見守ることとした。また、ルイズーさんの講演のテープを確認したところ、二〇〇年経ついても良く聞

こえた。

また、デジタルデータ保存のルールを、図書目録作成作業と平行して決めたいと提案した。そのために、現在集まりつつある、テープ、フィルム、ビデオ、写真、図画などを一時的に保管するためのスペースを四谷に確保。

○奥沢さんから、東京事務所の場合を他の団体との共同で確保したいとの確認があつた。趣意書を松本さんが作り、可能性のある団体グループに呼びかけることとなつた。

○DVD化も含めて、作業が煩雑になることが予想される。前記共同事務所が発足するまで当分の間、四谷の一室を作業場所とし、決まった曜日の夕方に集まり、各種作業を行う。

○海外で発行されたアナキストの手帳を見せられて、みな心が動いたものの、時間的な制約もあり、カレンダーだけとする。今年準備が遅れたので、一〇月中旬くらいを目標にした。タイトルは『アナキズムカレンダー』となった。

○アナキズム文献センターの設立については、すでにメーリングリストで告知されているが、会員募集の告知を行う必要がある。少なくとも、昨年の富士宮・ふもとの家での会合の参加者には、正式に知らせる。会員に対しては、何らかの「反対給付」のようなものが必要であろうと幾つかの案が出された。

八月運営委員会

二〇〇六年八月一九日

○平日の作業日は、毎週木曜日(午後六時から)

また、毎月第3土曜日の会合は、

スタッフ募集!!
「歴史の証人」をデジタル化しよう
エスペランチスト・山鹿泰治の作ったアルバムをデジタル化します。関心のある方、一緒にやりましょう。

時間を午後六時からに再度変更。
○DVD等のシステム作りについてAVデータの分類(項目)は(書籍)目録とは別枠で項目分類を整理することとした。

○藤原智子監督作品「ルイズーその旅立ち」について、センターとしては、預からせてもらうならば、このコピー時代では、貸出よりは販売の方向で考えたい。

○カレンダーについて制作を正式に決定。六〇〇部(二二万円) Ⅱ
損益分岐点は三〇〇部と思われる。次回会合にて中身、販路等を決める。

○年内(十一月)にDVD(字幕)、

カレンダーの完成記念イベントを行う。

○これまでの参加者、関係者向けに正式な発足報告書と入会申し込みの次回までに報告し、近日中に送付する。一般の入会申し込みは、後日改めて。

○運営委員会専用のブログをつくり、作業部会メンバー間のやりとりは随時の報告などに利用。

九月運営委員会

二〇〇六年九月一六日

○目録について分類項目を決定した。

印刷物Ⅱ単行本（パンフ含む）、定期刊行物（雑誌、機関誌・紙）、ビラ、ポスター、切り抜き（論文含む）▽AVⅡフィルム、ビデオ、テープ、CD/M/D、D/V/D、HD、写真▽その他Ⅱ手稿類（手書きもの）、物品（手紙含む）、項目カード（単なる情

報）

○ホームページ（HP）では最新情報部分をブログでやり、更新を各メンバーができるよう、また更新頻度を高めるようにする。運営委員会専用ブログを作成。作業部の進行状況などは今後こちらで報告していく。

近日中に会員を募集し、HPでも、入会案内をし、メンバーリスト登録できるようにする。

○次回の会議で、会員募集について詳細を決定。案内を作成する。まづこれまでの参加者や協力者によびかける。会費用に現在の郵便口座だけでなく、銀行口座をつくる。○カレンダーについて、予約受付も開始（予価千円）（予約者は送料無料）。カレンダーの予約をかねて、会員募集を行なう。

○メンバーリストについて旧MLは閉鎖して、新MLに完全に移行する。また、運営委員会用メンバーリストを作る。

○イベント（十一月）について

十一月に「希望と欺瞞の間に」の字幕化を記念して上映イベントを開催したい。プラスして、何か他の映画も併せた上映イベントにできないか。定例会合で試写などもやってはどうか（Ⅱ定例会合に参加してもらいやすい）。

一〇月運営委員会

二〇〇六年一〇月二二日

○平井さんの文献（平井文庫）について

平井さんのプロフィールなどつけて公開する方向（文献目録の他データあり）。資料は神戸の人たちの協力で一〇月二日、富士宮に届けられた。

○目録整理について

運営委員会前の作業部会にて、CD、MD、テープなどオーディオ類のカードを作成して整理した。○写真などの整理について

デジカメ、ライティング一式を選定し、購入する。その後に複写、保存を行う。

○カレンダーについて

カレンダーのスケジュールの最終確認を行った。一九日下版。完成は一〇月下旬。六〇〇部制作で、年内2ヶ月で最低三〇〇部は販売したい。

サイトにサンプル画像と注文フォームのせる。

○データベースについては、近日中にサンプルを公開予定。

アナキズム文献センター通信

第1号

発行/二〇〇六年一月一八日

発行所/アナキズム文献センター

編集/運営委員会

連絡先/東京都新宿区

1の30の12 三月工房気付

郵便振替口座

00850-3-30010

口座名 A文献センター

Eメール/info@cirar-japan.net